

飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 454 回 劇的に加速する「コンピュータ化する社会現象」

2012. 1.8

今から約 3 年前の「創業塾」、開業を目指す意欲ある人達の勉強会で、自分がやりたいビジネスモデルの発表会を実施した。その時ある若者が「クラウド」を使った新しいシステムのサービスをやりたいと、熱く語っていた。

こちらは講師、講評をしなければいけない立場ゆえ、何とか「クラウド」なる言葉を事前に調べ、その場を適度に繕(つくろ)っていたが、実は殆んどその意味が分からず、実感は全くなかった事、今恥ずかしながら告白してしまう。

その後爆発的なスマートフォンの普及や iPad(アイパッド)の開発・販売で、「クラウド」も一般的に活用する時代となった。かく言う小生も、DropBox(ドロップボックス)なるオンラインストレージサービスのミニクラウドを平気で使うようになった。

すでにご承知の方多いと思うが、「cloud」とは日本語では「雲」のことだが、最近では、クラウドコンピューティングを略して「クラウド」と呼ぶことが多い。データを自分のパソコンや携帯電話ではなく、インターネット上に保存する使い方、サービスのことをいい、自宅、会社、ネットカフェ、学校、図書館、外出先など、さまざまな環境のパソコンやスマートフォンからでもデータを閲覧、編集、アップロードすることができる。人とデータを共有するグループウェアのような使い方でもできる、画期的サービスの 1 つといってもいい。

IT (Information Technology) 特に Internet の普及と認知拡大は、目を見張るものがある。Twitter や Facebook が急激に社会認知されたことで、武器を持たず、人を殺すことなく独裁者を転落させ、国家革命ができるようになったのは、つい去年の事実である。米国陸軍は、戦車や無人偵察機、戦闘ロボット、電子装備を身につけた兵士などが収集した情報を、全地球測位システム(GPS)を利用した通信ネットワークで統合、運用し、地上部隊の戦闘能力を飛躍的に向上させるといふ。米国海軍でも空母の艦載機を無人化する研究が本格化している。戦争の形が全く変わっていく。数億ドルの育成費を投じた特殊技能を持ったパイロットは必要なくなり、テレビゲームの堪能な若者を集めればいいのかもかもしれない。

だから戦力の優劣は核保有数の自慢や弾道ミサイルの開発ではなく、いかに優秀な「ハッカー」を集めるかにかかってくる。中国人民解放軍はサイバー戦争の専門部隊を持ち、昨年、アメリカの人工衛星 2 機が中国からとみられるサイバー攻撃を繰り返し受けた。また、国防総省のコンピューターシステムに侵入し、国防長官のコンピュータを閉鎖せざるを得なかったとの報道もあった。アメリカに限らず、イギリス、ドイツ、そして日本でもハッカーによる攻撃を受けたのは、昨年の一貫した事件だった。

もちろん全て中国のせいとは言えないし、言っではいけない、真実は不明である。

今年からこの傾向は益々過激化するだろう。劇的に加速する「コンピュータ化する社会現象」に、我々一人ひとりはどう対処したらいいのか、「下手の考え休むに似たり」かもしれないが……今年からの人類のテーマであろう。